

平成 30 年度メディア芸術連携促進事業 連携共同事業

「第 7 回マンガ翻訳コンテスト」 実施報告書

デジタルコミック協議会

平成 31 年 2 月

目次

第1章 事業概要.....	4
1.1 第7回マンガ翻訳コンテストについて.....	4
第2章 事業の目的、主旨	5
2.1 マンガ翻訳コンテストの目的、主旨.....	5
2.2 過去実績.....	5
第3章 実施体制.....	7
3.1 実施体制図	7
3.2 審査員紹介	8
3.3 シンポジウム登壇者紹介	10
第4章 実施スケジュール	11
4.1 マンガ翻訳コンテスト実施プロセス及びスケジュール	11
第5章 実施内容.....	12
5.1 課題作品.....	12
5.2 応募状況.....	13
5.3 Manga Translation Battle of Professionals について	14
5.4 授賞式、シンポジウム概要.....	15
5.5 授賞式について	15
5.5 シンポジウムについて.....	17
第6章 広報、広報制作物	18
6.1 公式サイトを紹介.....	18
6.2 NYCC でのプロモーション	20
6.3 プレスリリース	21
6.4 チラシ	23

目次

第7章 成果.....	25
7.1 まとめ	25
7.2 アンケートについて	25
7.3 総括.....	26

第 1 章 事業概要

1.1 第 7 回マンガ翻訳コンテストについて

デジタルコミック協議会主催の元、全体運営を株式会社電通と海外のマンガ・アニメコミュニティサイト MyAnimeList（略称 MAL。Media Do International, Inc. 子会社が運営）が共同で実施。

出版社をまたいで課題作品を 3 作選出し、それぞれ指定ページの翻訳を募集した。プロアマ問わず応募可能とし、プロとして活躍する審査員によって厳正な審査を行い、受賞者を決定、表彰した。

同コンテストに関する情報を MyAnimeList のユーザーに対しメールマガジンや SNS などで国内外に広く発信し、授賞式は海外でのマンガ出版動向、電子書籍事情などを国内外のマンガ編集者・出版関係者がディスカッションするシンポジウムと併催する形で、平成 31 年 1 月 30 日（水）に講談社にて実施した。

第2章 事業の目的、主旨

2.1 マンガ翻訳コンテストの目的、主旨

日本マンガを翻訳する優秀な翻訳者の発掘と、海外における日本マンガの正規版流通促進を目的として、デジタルコミック協議会の主導により実施してきた。

2.2 過去実績

第1回 大賞 チョコレートコスモス（春田なな）Shana Shimizu 氏

VIZ select より配信中。（全4巻）

<http://www.viz.com/manga/digital/viz-select>（日本国内から購読不可）

作品優秀賞 神童（さそうあきら）pinkie-chan 氏

Crunchyroll Manga で配信中。（全4巻）

<http://www.crunchyroll.com/comics/manga/shindo/volumes>（日本国内から購読不可）

作品優秀賞 COPPELION（井上智徳）Amanda Haley 氏

Crunchyroll Manga 等で配信中。（全26巻）

<http://www.crunchyroll.com/comics/manga/shindo/volumes>（日本国内から購読不可）

同じく Crunchyroll Manga で配信中の「GTO パラダイス・ロスト」の翻訳も手掛けている。

第2回 大賞 恋とは呼べない（町屋はとこ 榎田 尤利）Sarah Kim Perry 氏

配信準備中

第3回 作品優秀賞 いばらの冠（神尾葉子）Casey Loe 氏

VIZ select より配信中。（全2巻）

<http://www.viz.com/manga/digital/viz-select>（日本国内から購読不可）

第4回 大賞 いまどきのこども（玖保キリコ）Monique Murphy 氏

VIZ select より配信中。（1巻～8巻まで配信中）

<https://www.viz.com/the-children-nowadays>（日本国内から購読不可）

作品優秀賞 会社のやつには絶対知られたくない（若竹アビス）Jennifer Ward 氏

配信準備中

作品優秀賞 蝶のみちゆき（高浜寛）Ronald Classman 氏

配信準備中

第2章 事業の目的、主旨

- 第5回 大賞 春はあけぼの 月もなう 空もなお (サメマチオ) Eleanor Summers 氏
配信準備中
作品優秀賞 ずっと独身でいるつもり? (おかざき真里) Emma Schumacker 氏
配信準備中
作品優秀賞 ジャンプの正しい作り方! (サクライタケシ) Emily Taylor 氏
配信準備中
- 第6回 大賞 ニューヨーク・ニューヨーク (羅川真里茂) Preston Johnson-Chonkar 氏
配信準備中
作品優秀賞 ハチ参る (遠藤淑子) Stephen Kohler 氏
配信準備中
作品優秀賞 であいもん (浅野りん) Cyrus Kwong 氏
配信準備中

また、以下の URL から、過去の受賞者へのインタビューを視聴できる。

<http://goo.gl/crPXsJ> (Shana Shimizu 氏)

<http://goo.gl/RvWXFd> (Sarah Kim Perry 氏)

<https://www.youtube.com/watch?v=-bqEtMRRUXs> (Jenny McKeon 氏)

https://www.youtube.com/watch?v=oOZ_iF7t79I&t=8s (Monique Murphy 氏)

マンガ翻訳の重要性を啓発すること、そして日本のマンガを世界へ広く普及することを目的とした「マンガ翻訳コンテスト」は今年度で7回目。

多くのコンテスト受賞者をマンガ翻訳家として、デビューさせ、育成してきた。

第3章 実施体制

3.1 実施体制図

主催：文化庁、デジタルコミック協議会

※本コンテストは、平成30年度文化庁メディア芸術連携促進事業における連携共同事業として採択された。

コンテスト運営協力：株式会社 電通 / MyAnimeList (Media Do International, Inc.の子会社)



3.2 審査員紹介

Deb Aoki

(MangaComicsManga.com 編集者)

漫画ライター。

日本のアニメや文化を世界に紹介するウェブサイト「アニメニュースネットワーク」など様々なメディアで、日本のマンガに関する記事を執筆している。



Matt Alt

(翻訳家)

漫画翻訳家。

『ドラえもん』『ドロヘドロ』『ぬらりひよんの孫』などの作品を翻訳している。



William Flanagan

(マンガ翻訳家)

マンガ編集翻訳家。

『ポケットモンスター』や『美少女
戦士セーラームーン』『Fairy Tail』
などの作品を翻訳している。

木村智子

(マンガ翻訳家/翻訳学校講師)

『かくりよの宿飯 (かくりよのやど
めし)』『黒執事』などの作品を翻訳。
フェロー・アカデミーでマンガ英訳
講座の講師も務めている。



3.3 シンポジウム登壇者紹介

■モデレーター

原田 圭 はらだ けい

LINE Digital Frontier 株式会社 サービス運用部 部長

東京都生まれ。大学卒業後、朝日新聞社書籍編集部（現朝日新聞出版）にて朝日文庫の編集を経験した後、2004年にアマゾンジャパンに入社。

2012年まで Books チーム、2013年から2015年まで DIY チームに所属。2015年 LINE 株式会社に入社し、LINE マンガのサービス運用業務に携わる。

現在、LINE マンガで提供する各出版社作品に関する運用・企画業務や、国内外 250 社前後のアライアンスを担当。

■パネラー

김효민 Kim hyo min

NAVER WEBTOON Corp Global Webtoon/JPService/Lead

ソウル生まれ。大学卒業後、NAVER 本社に入社しサービス企画を経験。

2007～2012年、日本向けの NAVER Japan 検索サービス・2012～2015年に韓国 NAVER 内のマガジンサービスを担当しながらコンテンツ分野を経験。

2016年からは NAVER WEBTOON の日本事業部に配属され LINE マンガと協力、海外作品及び日本作品約 140 作を提供中。

奥田 茂 おくだ しげる

NTT ソルマーレ株式会社 電子書籍事業部編集部長

1990年 日本電信電話株式会社（NTT）入社。人事、法人営業やサービス企画を歴任。

2002年 NTT ソルマーレ株式会社設立と同時に同社に出向。

街頭端末によるコンテンツ配信サービス立ち上げに当たり各種コンテンツ権利元への許諾営業、配信端末の設置場所営業等を担当。

その後「コミック i」「コミックシーモア」のサービス立ち上げ、コマ形式のコミック制作体制構築、出版社営業等のマネージャーとして事業を推進。

2012年からはオリジナルコミックの編集部である「ソルマーレ編集部」を設立し、部長としてオリジナルコミック制作、「コミックシーモア」をはじめ国内電子書店への配信等事業全体を統括するとともに、現在は出版社作品の取次ぎを含めた海外配信事業全般も担当している。

第4章 実施スケジュール

余 影兎 Yeo Young Ah

DCW 代表理事

1995年、株式会社鶴山文化社に国際部として入社。

会社の設立当初から海外ライセンス部門を担当し、日本の優秀な数々のマンガと書籍を韓国にて展開するとともに自社の韓国マンガを海外へ紹介している。

2004年より海外単行本編集部、2006年よりはデジタル事業部を兼任することになり、日本マンガの出版事業及びデジタルコミック事業部門を統括している。

2017年9月より DCW の代表取締役を兼任している。

金 在龍 Kim Jay.Yong

株式会社カカオジャパン 代表取締役

2006年から NHN Japan 株式会社にて Hangame, LINE, comico のサービスを経験。

その後、カカオジャパンでの新規事業立ち上げに携わるため、2015年5月より現職。

2016年4月、漫画アプリ「ピッコマ」をリリース。

2018年7月、<待てば¥0>で見られる動画配信サービス「ピッコマTV」をリリース。

第4章 実施スケジュール

4.1 マンガ翻訳コンテスト実施プロセス及びスケジュール

■コンテスト実施プロセスと成果

平成30年5月～8月

コンテストの詳細検討

課題3作品の選定を行い、今後のコンテスト実施スケジュールを決定した。

今年はマンガ作品の他、ライトノベルの作品も選定。

平成30年9月7日（金）～11月5日（月）

コンテスト応募期間

9月7日（金）よりコンテストへの応募を開始した。194件の応募があった。

平成30年10月

審査員による記事執筆

審査員による翻訳のコツや翻訳者としてのキャリア形成などの記事を執筆し随時 MyAnimeList の Forum 欄にて更新し、マンガ翻訳コンテスト HP へとリンクした。

第5章 実施内容

平成30年11月6日（月）～12月3日（月）

応募作品のスクリーニング

応募作品の第一次審査及び審査員による選考を行い、最終作品候補を選考した。

平成30年12月14日（金）

ファイナリスト 発表

平成30年12月28日（金）

作品優秀賞・大賞発表

審査員4名による協議の上、課題作品ごとに「作品優秀賞」を選出し、作品優秀賞3作品の中から「作品優秀賞・大賞」1作品を決定した。

平成31年1月30日（水）

授賞式・シンポジウムを開催。

第5章 実施内容

5.1 課題作品

- ① 『egg star』（戸田誠二／株式会社 宙出版）
 - ② 『みやこ美人夜話』（須藤佑実／株式会社 祥伝社）
 - ③ 『京都寺町三条のホームズ』（望月麻衣／双葉社）※ライトノベル作品
- 以上、合計3作品を対象作品とした。

第5章 実施内容

5.2 応募状況

249 件の応募があり、各国の応募状況では、アメリカからの応募が最多となった。

国	応募数
USA	94
JPN	20
GBR	13
CAN	8
SGP	6
AUS	6
RUS	4
TUR	3
BRA	3
MYS	3
GRC	3
PHL	3
IND	3
BGD	2
DEU	2
POL	2
COL	2
NZL	2
ITA	1
FIN	1
ESP	1
HKG	1
FRA	1
IDN	1
ROU	1
NLD	1
SAU	1
CHL	1
SWE	1
DOM	1
BRN	1
ISR	1
PRT	1

応募タイトル	応募数
egg star	107
みやこ美人夜話	37
京都寺三条ホームズ	50

応募タイトルは星の王子様を原作とした **egg star** がかなりの割合を占めることとなった。マンガの内容的にも翻訳しやすかったことが想像される。

『京都寺町三条のホームズ』は翻訳量の多いライトノベルにも関わらず応募が多かった。各国の応募者からの作品を一時スクリーニングにかけ、9 作品の最終候補を選出。

対象の 9 作品を、翻訳コンテスト審査員 4 名により最終審査。4 名の受賞者を決定した。

■ 審査結果

- ・ 作品賞 (2 作品)

『egg star』

Thomas Threlfo 氏

Alex Liobis 氏

『京都北町三条のホームズ』

Minna Lin 氏

第5章 実施内容

- ・大賞（1 作品）
『みやこ美人夜話』
Molly Karinen 氏

5.3 Manga Translation Battle of Professionals について

通常のマンガ翻訳コンテストに加え、既にプロとして活躍している翻訳者 8 名が、トーナメント形式でマンガ翻訳の腕を競うエキシビション「Manga Translation Battle of Professionals」を開催した。

■ コンテスト概要

参加者により、課題作品を日本語→英語へ翻訳

概要:8 名のプロの翻訳家がトーナメント形式で競う。

1 ラウンド、2 ラウンドはそれぞれ 20 ページ程度を翻訳。

最終の 3 ラウンドは 30 ページ程度を翻訳。

審査:翻訳の良しあしではなく、「好きな翻訳」をユーザーに投票してもらい、それぞれ票数が多かった人が次のラウンドへ進むことができる。

■ 課題作品

Round1 『中間管理録 トネガワ』

(原作:萩原天晴 漫画:橋本智広・三好智樹 協力:福本伸行/講談社)

Round2 『パタリロ!』 (魔夜峰央/白泉社)

Round3 『キングダム』 (原泰久/集英社)

■ 参加者

1. Iyasu Adair Nagata 氏 翻訳キャリア 20 年以上
2. Erin Procter 氏 主な翻訳『コウノドリ』『食糧人類』
3. Jennifer Ward 氏 第 4 回マンガ翻訳コンテスト 作品賞受賞者
4. E. Welty 氏 翻訳キャリア 5 年以上
5. Preston Johnson-Chonkar 氏 第 6 回マンガ翻訳コンテスト 大賞受賞者
6. Jenny McKeon 氏 第 3 回マンガ翻訳コンテスト 作品賞受賞者
7. Monique Murphy 氏 第 4 回マンガ翻訳コンテスト 大賞受賞者
8. Kevin Gifford 氏 マンガ以外でもゲームやアニメなども翻訳

第 6 回マンガ翻訳コンテスト大賞受賞者の Preston Johnson-Chonkar 氏が優勝した。

5.4 授賞式、シンポジウム概要

■授賞式&シンポジウム

- ・開催日時：2019年1月30日（水）
授賞式：18：00～18：53
シンポジウム：19：00～20：30
- ・会場：株式会社 講談社

■授賞式登壇者

- ・司会：新井里美（声優/ナレーター）
- ・開会の挨拶：デジタルコミック協議会 村川理事長
- ・審査員4名
- ・閉会の挨拶：文化庁 坪田知広 参事官（芸術文化担当）

■シンポジウム登壇者

- ・モデレーター：原田圭（LINE Digital Frontier 株式会社 サービス運用部 部長）
登壇者：Yeo Young Ah（DCW 代表理事）
：Kim Jay.Yong（株式会社カカオジャパン 代表取締役）
：奥田茂（NTT ソルマーレ株式会社 電子書籍事業部編集部長）
：Kim hyo min（NAVER WEBTOON Corp Global Webtoon/JPSservice/Lead）

5.5 授賞式について

■授賞式(18:00～18:53)

①開会の挨拶

デジタルコミック協議会 村川理事長の挨拶を頂き開始。

②対象作品の紹介

対象作品3作品を、司会者より動画を交えて紹介

③受賞者の発表

各作品の優秀賞2作品の発表後、大賞受賞者の発表。

④授賞式

作品賞受賞者1名(カナダ在住)の受賞のコメント動画を流した。

またもう1名の作品賞受賞者(静岡在住オーストラリア人)と大賞受賞者1名(北海道在住アメリカ人)が来場し、賞状授与・受賞のコメントを発表。

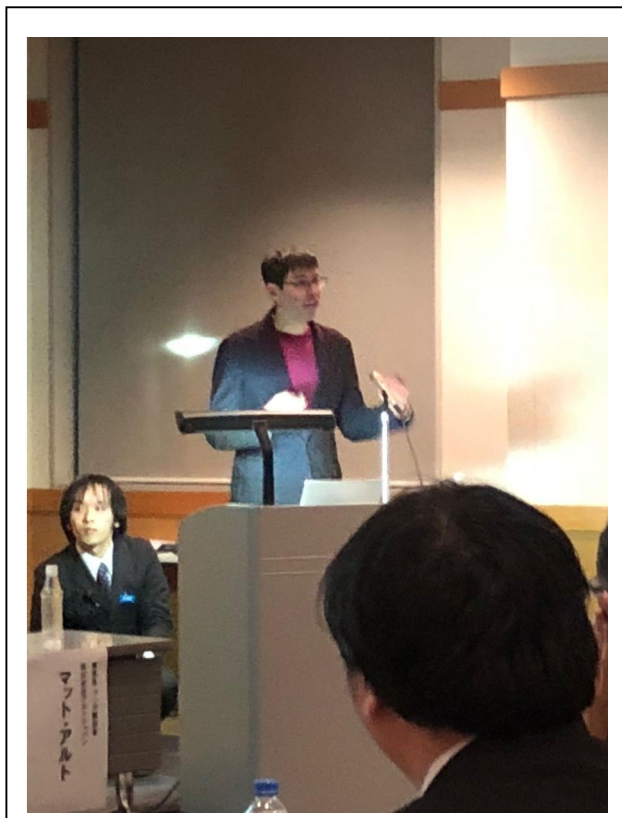
⑤審査員からの講評

第5章 実施内容

審査員からのトライ&エラーとして、目立った翻訳の落とし穴やアドバイスなどをパワーポイントを使用して発表した

⑥閉会の挨拶

文化庁 坪田知広 参事官(芸術文化担当) からの閉会の挨拶で授賞式を終了。



審査員のマツトアルトさんからの講評

審査員の木村智子さんからの講評



文化庁坪田知広参事官(芸術文化担当)からの閉会の挨拶

5.5 シンポジウムについて

■シンポジウム(19:00~20:30)

①モデレーターとパネラーの紹介

授賞式の司会者からモデレーターへ引き継ぎ、4名のパネラーを紹介。

②プレゼンテーション

4名のパネラーが、各5分~10分ずつプレゼンテーションした。

韓国及び日本での電子書籍の黎明期から現在に至るまでの各社の取り組みを説明した。

③プレゼンテーションを踏まえ、「韓国における電子書籍市場の配信モデルと日本のデジタルコミック」というテーマでディスカッションし、白熱した議論が飛び交った。

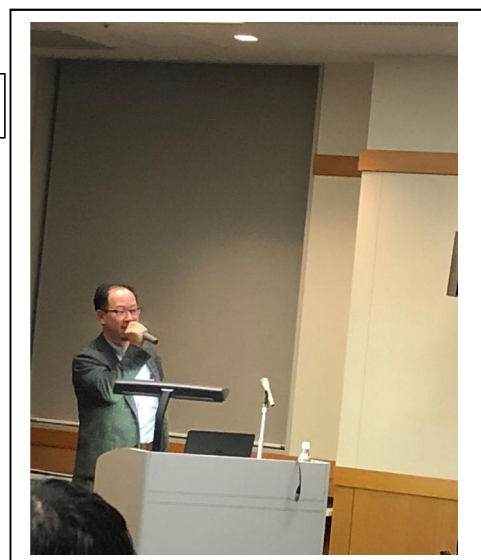
④シンポジウムのまとめ

モデレーターの主導で、シンポジウムの総括が行われた。



シンポジウムの様子

パネラーによるプレゼンテーション



第6章 広報、広報制作物

6.1 公式サイトへの紹介

公式 Web サイト/Battle of Professionals Web サイト

<https://mtb7.myanimelist.net/>

<https://mtb7.myanimelist.net/professionals/index.html>

※今年度は、参加者以外も楽しめるよう、Battle of Professionals を企画し、ユーザーから投票を募った。そのプロモーションとして、動画の制作も行った。



Manga Translation Battle of Professionals has begun!

531 回視聴

👍 10 🗨️ 0 ➡️ 共有 🔄 ...

 MANGAPOLO
2018/10/12 に公開

登録済み 5.1万 🔔

投票総数：2,288 票


動画再生回数：576 回

想定していた再生回数より動画の再生自体は伸び悩んだが、投票数については想像以上に投票が入り、本コンテストの盛り上がりにも寄与したと考える。

第6章 広報、広報制作物

※翻訳のコツや翻訳者としてのキャリア形成など、審査員4人が記事を執筆した。

RELATED ARTICLES




The Agony of Aisatsu

Greetings and common phrases are some of the most difficult parts of translating Japanese, but the key to handling everyday aisatsu is simply maintaining flexibility.

Oct 30, 2018 | by Matt Alt

[Read](#)




Visual Cues and Panel Layouts

Manga combines drawings with text, so missing a visual cue can easily trip up your translation. You also need to take panel layouts into account when translating certain types of spoken lines. Here are tips on how to deal with these two issues.

Oct 25, 2018 | by Tomo Kimura

[Read](#)



Translating Puns

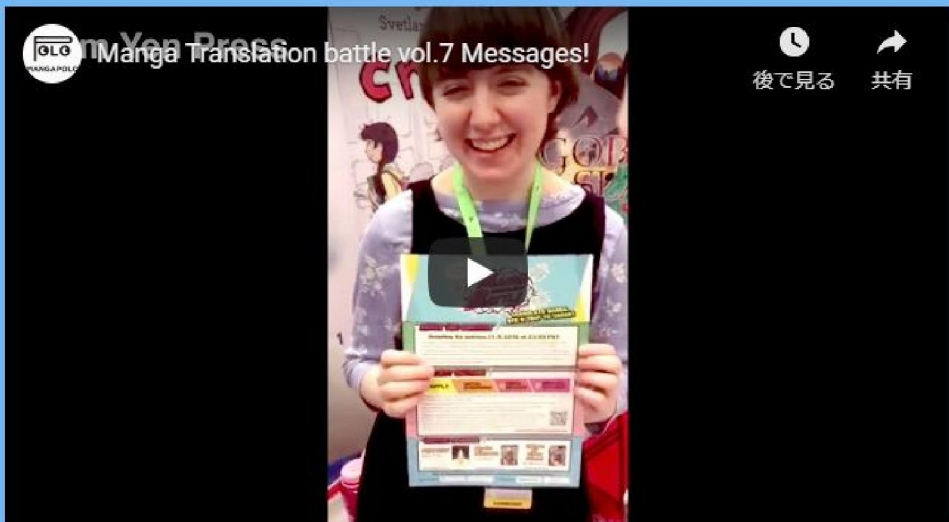
Puns can be a translator's bane since the ninety-nine times out of a hundred, there will be no equivalent pun in English for the pun in Japanese. Still, humor is a big part of manga, and puns a huge part of Japanese humor. So here are tips on how to deal with puns.

Oct 2, 2018 | by William Flanagan

[Read](#)

※NYCCにて海外出版社の編集者の方等に応援メッセージを頂いた。

MESSAGE VIDEO



6.2 NYCC でのプロモーション

- 出張先：ニューヨーク・コミコン (NYCC - New York Comic-Con)
- 出張期間： 2018年10月5日(金)～9日(火)
- 目的：マンガ翻訳コンテスト「Manga Translation Battle Vol.7」及び「Manga Translation Battle of Professionals」プロモーション

- プロモーション内容：
 - NYCC 会場内チラシ配布
MANGA 出版社の各ブースにチラシを設置し、ブース来訪者にチラシを配布した。
(約 1,000 枚)
 - 関係各社に「翻訳コンテスト」プロモーション協力を依頼
日本 MANGA を出す出版社 (VIZ Media、Kodansha USA、Yen Pres、Dark Horse など) 他、関係各社に今年度の「翻訳コンテスト」プロモーション協力を依頼し、出版社からのメッセージ取得。MANGA 出版社 3 社 (VIZ Media、KodanshaUSA、Yen Press) から、「翻訳コンテスト」への応援メッセージを頂いた。
 - MANGA/コミックを専門とする米ジャーナリストにプロモーション協力を依頼
当コンテストの審査員を務める Deb Aoki 氏に加え、Brigid Alverson 氏、Heidi MacDonald 氏等、アメリカで最も影響力を持つ MANGA や米コミックスを専門とするジャーナリストと知己を得て、コンテストのプロモーション(「翻訳コンテスト」に関する記事の執筆、SNS での情報共有、など)を依頼した。
記事については、授賞式・シンポジウムも踏まえ、審査員の Deb Aoki さんが執筆する予定。
 - Anime News Network (アニメ・ニュース・ネットワーク) から取材
英語圏で最も知名度が高く老舗の ANIME/MANGA 情報サイトである Anime News Network からの取材で、デジタルコミック協議会の関谷海外推進委員会委員長が「翻訳コンテスト」に関してインタビューを受けた。

6.3 プレスリリース

・応募開始時

報道関係者 各位

2018年9月10日
デジタルコミック協議会

「第7回マンガ翻訳コンテスト」募集開始!!

日本のマンガは、いま世界中で「MANGA」として親しまれるようになり、そして、その躍進に不可欠なのが「マンガ翻訳家」です。マンガ家も、魂を込めて作り上げた作品も、翻訳がきちんとされなければ、世界の読者には届きません。日本の文化財財源であるコミック、マンガ文化のデジタル化を促進し、全世界に向かって、著作権とともにデジタルコミックの普及を推進することを目的とする団体であるデジタルコミック協議会は、「マンガ翻訳コンテスト」を通じて、マンガ文化のもう一人の主役とも言える、マンガ翻訳家を表彰する人々に、プロデビューのきっかけを与えたいと考えています。

2018年に始まったこのコンテストは、世界で唯一の出発点公認のマンガ翻訳コンテストです。過去8回の受賞者の中には、すでにプロの翻訳家として活躍を始めた方もいます。第7回となる今回のコンテストへ、多くの応募をお待ちしております。

第8回となった前年度の「マンガ翻訳コンテスト (Manga Translation Battle)」でも、大賞及び作品賞を計3名が受賞、翻訳家としての道を歩み始めました。

- 【第8回マンガ翻訳コンテスト 対象作品・受賞者】
- ・大賞 対象作品:『ニューヨーク・ニューヨーク』(窪川真規氏/白泉社)
受賞者:『Freston Johnson-Chonkani』氏
 - ・作品賞 対象作品:『であいもん』(徳野りん/ADOKAMI)
受賞者:『Cyrus Kwong』氏
 - 対象作品:『ハジまる』(遠藤浪子/秋声社)
受賞者:『Stephen Kohler』氏

そして今年度も、前年度同様、文化庁メディア芸術連携推進事業のひとつとして、文化庁及びデジタルコミック協議会の主催で、「第7回マンガ翻訳コンテスト (Manga Translation Battle vol.7)」を実施することになりました。

株式会社ディー・エヌ・エーが運営する「MyAmmeList」の協力の下、公式サイトをオープンし、9月7日より応募を開始しました。

詳細は次ページをご覧ください。

コンテスト概要

日本語→英語への翻訳を対象とします。

- 応募開始 2018年9月7日(金)※日本標準時
- 締め切り 2018年11月5日(月)※日本標準時
- 応募資格 プロ・アマ、個人・チーム問わず、どなたでもご応募できます。
- 第1次審査 プロ翻訳家による翻訳の選別レベルのチェック
- 最終審査 第1次審査通過作品は、MyAmmeListのウェブサイトに公開され、オンライン審査委員による審査の対象となります。
- 発表・授賞式 受賞者は2018年1月に発表され、大賞受賞者は、2018年2月上旬締め切りで開催予定の授賞式へご招待と、副賞が送られます。また、当該作品の翻訳者としてのデビューの道が開けます。

応募要項

以下のウェブページから、対象作品の中からひとつを選んで、応募してください。
<https://tbl7.mangalist.net/index.html>

第7回となる今回は、初めてライトノベルという新しい分野も課題作品として加え、デジタルコミック協議会加盟各社に協賛を、バラエティに富んだ以下の3作品が翻訳対象作品となりました。

- 『eggstar』(河田誠二/株式会社 宙出版)
- 『みやこ美人恋話』(書籍作家/株式会社 祥伝社)
- 『京都寺町三条のホームズ』(望月麻衣/双葉社) ※ライトノベル作品

審査員

- Debra Aoki マンガジャーナリスト
- Matt Alto マンガ翻訳者
- William Flanagan マンガ翻訳者
- 木村智子 マンガ翻訳者/マンガ翻訳家育成講師

マンガ、ライトノベルを愛し、翻訳を通してマンガを世界へ開ける志をもった沢山の皆さまの応募をお待ちしています。

主催:文化庁、デジタルコミック協議会
コンテスト運営協力:株式会社 電通/MyAmmeList

※本コンテストは平成30年度文化庁メディア芸術連携推進事業における連携共同事業として採択されています。

■本コンテストに関するお問い合わせ先

- メール: info@mangapolo.jp
- 電話: 03-6218-8318 (平日 10:00~17:00)
- デジタルコミック協議会 (事務局 電通内 租倉: 浜井)

第6章 広報、広報制作物

・授賞式・シンポジウム告知

報道関係者 各位

2018年9月18日
デジタルコミック協会

Manga Translation Battle of Professionals 開始!

マンガ翻訳家を志望する人々にデビューのきっかけを与えてきた「マンガ翻訳コンテスト」。第7回を迎える今回は、通常のマンガ翻訳コンテストに加え、既にプロとして活躍している翻訳者もが、トーナメント形式でマンガ翻訳の腕を競う「Manga Translation Battle of Professionals」を開催することになりました。

これからマンガ翻訳家を目指している人たちにとっても、プロの翻訳者の翻訳を見ることは役に立つことだと考えます。また、翻訳家志望ではない一般の方々にとっても、気軽に参加できる企画として、是非、ご来場を請け、投票参加していただければ幸いです。

【評選作品】
Round1 『中間地誌録 トネガワ』
(原作：萩原実晴 漫画：梅本智広・三好賢哲 協力：福本伸行/講談社)
Round2 『バネリロ!』(原作：峰岸暁夫/白泉社)
Round3 『キングダム』(原作：野田高梧/集英社)

【参加者】

1. Iyama Aisai Nagata 氏	翻訳キャリア 20年以上
2. Erin Procter 氏	主な翻訳『コウノドリ』『食種人誌』
3. Jennifer Ward 氏	第4回マンガ翻訳コンテスト 作品賞受賞者
4. E. Welty 氏	翻訳キャリア 8年以上
5. Preston Johnson-Chonkar 氏	第8回マンガ翻訳コンテスト 大賞受賞者
6. Jerry McLean 氏	第3回マンガ翻訳コンテスト 作品賞受賞者
7. Monique Murphy 氏	第4回マンガ翻訳コンテスト 大賞受賞者
8. Kevin Gifford 氏	マンガ以外でもゲームやアニメなども翻訳

コンテスト概要
参加者により、課題作品を日本語→英語へ翻訳

概要：2名のプロの翻訳者がトーナメント形式で戦います。
1ラウンド、2ラウンドはそれぞれ20ページ程度を翻訳。
最終の3ラウンドは30ページ程度を翻訳。
審査：翻訳の良し悪しだけでなく、「好きな翻訳」をユーザーに投票してもらい、それぞれ票数が多かった人のラウンドへ進むことができます。

HP
以下から manga translation battle of professionals をご覧いただき参加いただけます。
<https://atb7.namelist.net/professionals/>

皆さんからの参加、投票をお待ちしております!

※
「第7回マンガ翻訳コンテスト」も引き続き応募を募り続けております。
<https://atb7.namelist.net/index.html>
締切り：2018年11月5日(月) ※アメリカ西海岸標準時

主催：文化庁、デジタルコミック協議会
コンテスト運営協力：株式会社 電通 / MybiaeList

※本コンテストは文化庁平成30年度メディア芸術連携促進事業における連携共同事業として採択されています。

■本コンテストに関するお問い合わせ先
メール: info@namelist.jp
電話：03-8218-8318 (平日 10:00~17:00)
デジタルコミック協議会 事務局 電通内 担当：浅井

口述者プロフィール

(パネラー)

Gregoire Hellet (グレゴアール エロ)

略歴:

1975年3月生まれ。フランス、パリ在住。

1991年フランス唯一のゲーム誌『JOYSTICK』にアルバイトとして入社。フランスにおける日本ゲーム業界専門家となり、日本のポップカルチャー解説者としてテレビやラジオなどで活躍。1998年からファミ通グループ発行のいくつかの雑誌にゲームを含む日本の文化が欧米でどのように受け入れられているかを紹介するコラムを連載。2004年、フランス最大の出版社「Pocket」にヘッドハンティングされ、「Kurokawa」という専門部門を立て、ライセンスを担当。『鋼の錬金術師』『聖闘士星矢 THE LOST CANVAS 冥王神話』『ゼクストモンスターズベシヤル』など数々のミリオンセラー作品を手掛け、最近ではフランス漫画界で100万部突破連続記録の『ワンピース』の実績も。現在もフランスの各メディアで日本のポップカルチャー解説者として活躍し、日本のゲーム会社のアンバサダーやコンサルティングもしている。

Michael Gombou (マイケル ガンボウ)

略歴:

1976年9月生まれ。カリフォルニア州出身。オレゴン州在住。

2004年にライセンス部門アシスタントとしてダークホース社に入社。当初3社ほどであった日本の契約企業を50社にまで増やす。現在、世界中の出版社とのライセンス取得を担当し、日本のみならずヨーロッパ各社との契約も増やしている。『CLAMP オムニバス編』『吸血鬼ハンターD』『ベルセルク』『ゼルの伝説ハイムヒストリア』や天野喜博先生の画集等、数々のダークホース社のベストセラー作品を手掛け、『GANTZ』『アイアムヒーロー』『初音ミク・鏡音リン』等も海外へ届けている。これまで英訳作品1000点以上を契約取得、国際出版事業部を統括している。

麻子 吉久 (いーいしひき)

略歴:

1991年株式会社集英社に入社。「週刊少年ジャンプ編集部」に配属。「選べる立王」を始め、マンガ編集者として数々の作家・作品を手掛ける。「ジャンプ SQ」副編集長を経て、「週刊少年ジャンプ」編集長を務める。2017年6月より第3編集部部長。「週刊少年ジャンプ」、「ジャンプ SQ」、「Jジャンプ」、「ジャンプ+」、及び「キャラクタービジネス室」を統括している。

(モデレーター)

吉野 倫 (よしなおむ)

略歴:

1981年株式会社講談社に入社。「週刊少女フレンド」編集部、国際室、映像・ソフト制作部等を経て、2007年2月よりデジタル事業局長、その後サイト事業局長、デジタル・国際ビジネス局長などを歴任。現在はライツ・メディアビジネス局長を務める。国際室ではコミックの海外版権に定率、映像・ソフト制作面でも公式モバイルサイトの立ち上げ、デジタル専売局で電子書籍配信事業の立ち上げを行う。現在は、アニメや実写映画のプロデュースに携わるとともに、海外事業全般、デジタルメディアの開発等多岐な分野を担当している。

以上

6.4 チラシ

コンテストの告知チラシ



- ・アメリカで開催された New York Comic Con *1 にてチラシを配布し、コンテストへの応募を呼びかけた。(御協力：VIZ Media、Kodansha USA Publishing、Yen Press)
- *1 アメリカ東海岸で最大規模を誇るポップカルチャー・イベント。アニメ、ゲーム、コミック、映像など、展示ジャンルは多方面にわたり、各界から多くの著名人も訪れている。
- ・翻訳学校のフェロー・アカデミーのマンガ翻訳講座にてチラシを配布した。

授賞式・シンポジウムの告知チラシ（表面）



マンガ翻訳の優秀者をプロの翻訳家を始めとするオフィシャル審査員による最終審査で決定するマンガ翻訳コンテスト、「Manga Translation Battle vol.7」。

マンガ翻訳家志望者の活躍の場を増やし、世界のより広い層に質の高い日本のマンガ文化を発信するプラットフォームとなることを目指して、今回で7回目の開催となります。今回の大賞受賞者を迎える授賞式を行い、シンポジウムでは、常に新しい配信手法を追求する韓国からもパネラーを招き、日本の代表的なプラットフォームと共に、日本のデジタルマンガの今後について語っていただきます。ご多忙中とは存じますが、ぜひともお越しいただけますようお願い申し上げます。

Manga Translation Battle vol.7 翻訳コンテスト授賞式・シンポジウム

日時 2019年1月30日(水) 18:00~20:30 (開場17:30) (主催)文化庁、デジタルコミック協議会

場所 講談社 高層棟H201会議室 (コンテスト運営協力)株式会社 電通 株式会社 デイ・エス・エー

【イベント詳細及び参加申し込み】 <https://mtb7.myanimelist.net/ceremony/index.php>

※本コンテストは平成30年度文化庁メディア技術連携促進事業における連携共同事業として採択されています。

メディア技術連携の情報発信サイト(メディア芸術カレントコンテンツ): <https://mediag.bunka.go.jp/>

翻訳コンテスト公式ページ: <https://mtb7.myanimelist.net/>

授賞式・シンポジウムの告知チラシ（裏面）

プログラム (敬称略)

■ 翻訳コンテスト授賞式

- 司会** 新井里美 (伊集/ナレーター) **モデレーター** Debora Aoki (マンガジャーナリスト) Matt Alt (マンガ翻訳者/株式会社アルトジャパン) William Flanagan (マンガ翻訳者/編集者) 木村哲子 (マンガ翻訳者/フェロー/アカデミー-韓国)

■ シンポジウム

韓国における電子書籍市場の配信モデルと日本のデジタルコミック

WebToonをはじめとする韓国のマンガ配信は、読者~ロイヤルカスタマー育成に加え、新しい作家の発掘まで、多方面からのサービス構築が為されており、その市場形成に大きく関わっている。

- 例) ・「待ちは無料モデル」を活用したプロモーションによる集客
- ・「話」配信によるライトユーザー向けの検閲モデルの充実
- ・作家志望のユーザーへの門戸開放 etc

現在日本では、それをさらに日本向けにローカライズし、ブラッシュアップさせたモデルが大きな成果を上げつつある。今回のシンポジウムでは、実際に日韓のサービスに携わっているキーマンをパネリストに加え、デジタルコミックの今後のさらなる可能性について語ってもらう。

- パネラー** Yeo Young Ah (OCW 代表理事) Kim Jay Yong (株式会社カオジャパン 代表取締役) 奥田茂 (NTTソニー株式会社 電子書籍事業部編集部長) Kim hyo min (NAVER WEBTOON Corp Global Webtoon/JPService/Lead)
- モデレーター** 原田圭 (LINE Digital Frontier株式会社 サービス運用部 部長)

【取材及びイベントに関するお問い合わせ】
メール: info@mangapolo.jp 電話: 03-6216-8313(平日 10:00~17:00)
デジタルコミック協議会(事務局:電通内) 担当: 浅井



第7章 成果

7.1 まとめ

■各賞受賞者決定

- ・大賞（1作品）

『みやこ美人夜話』

Molly Karinen 氏

- ・作品賞（2作品）

『京都寺町三条のホームズ』

Minna Lin 氏

『egg star』

Thomas Threlfo 氏

Alex Liobis 氏

■「授賞式・シンポジウム」来場者数：163人

（以下、内訳）

- ・事前申込者数：6人
- ・当日受付者数：6人
- ・関係者数：48人
- ・その他（名刺）：103人
- ・取材：1人

■アンケート回収数：99枚 ※代表的な内容を「7.3」に記載。

7.2 アンケートについて

■シンポジウムの満足度

大変満足	29
満足	48
どちらでもない	9
不満	2
とても不満	0
未記入	10

第7章 成果

■シンポジウムコメント（良かった点）

- ・ビジネスモデルの目指す方向性を各社分聞けたこと。
- ・韓国事情が分かった、ピッコマにビジョンがあることが分かった。
- ・売り方など、興味深い話が聞けて良かった。
- ・翻訳の深さが垣間見られた
- ・NAVER など、ふだんお話があまり聞けない方のお話が聞けて面白かった。
- ・翻訳コンテストは講評も面白く、今後も続けてほしい。
- ・翻訳のニュアンスの違いを例を使って教えてくれたことで楽しく学べた。もっと知りたい。
- ・コンテストの受賞者に実際に会えたこと。
- ・ピッコマの話が面白かった。
- ・韓国のデジタルコミックの歴史が知れて良かった。
- ・多角的な情報を知ることができる有意義な企画でした。

■シンポジウムコメント（悪かった点）

- ・冒頭の各社の紹介が長かった、もっとディスカッションを聞きたかった。
- ・もう少しコンテストの話が聞きたかった。
- ・各社の PR より、もっとディスカッションしてほしかった。ディスカッションテーマをあらかじめ募集してもいいのかもと思った。
- ・某社のアピールの場のようなだったので、テーマがぼやけていた。
- ・ディスカッションの椅子を高くしないとよく見えない。
- ・後半は会社紹介であって、シンポジウム感があまりない。
- ・市場や Webtoon の未来について焦点を絞って聞きたかった。
- ・会議室の椅子だけに 2 時間半はきつい。
- ・飲物・トイレ休憩が欲しかった。
- ・全体的に長すぎた。
- ・会場がシーンとなっていたので、ロゴのようにポップにイベントを演出してほしい。
- ・コンテストとシンポジウムのテーマが遠く感じた。
- ・時間が足りないように感じた。
- ・時間が遅くなったので、開始・終了時刻を早めてほしい。
- ・文字の資料があればうれしい。

7.3 総括

「マンガ翻訳コンテスト」は今回で第 7 回を迎えた。大賞、各作品優秀賞、計 4 名を選出し、「海外にマンガを広めていく際に、不可欠となる優れた翻訳家の発掘、育成」という、「マンガ翻訳コンテスト」の目的を達成することができた。前回同様、今回の応募条件では、

第7章 成果

プロ・アマを問わなかった。その結果、250 近くの応募があり、審査員から非常にレベルが高いという評価も受けた。今後も幅広く人材を発掘・育成するよう試行錯誤を重ねつつ、コンテスト自体も進歩していかなくてはならない。受賞者が、対象作品の版元とともに対象作品を翻訳し、海外において翻訳版の配信を行うべく、また、受賞者がマンガ翻訳者として成長、成功するよう、引き続き可能なサポートを行っていくことも、「マンガ翻訳コンテスト」に課された責任である。

今回は、新しく分野を広げるためにライトノベルも課題作品に加え、募集を行った。ライトノベルの課題作品の「京都寺町三条のホームズ」は分量が多く、ハードルが高い作品にも関わらず、50 件もの応募があった。

また、今回は受賞に至らなかったものの、最終候補者などレベルの高い翻訳をしていた応募者が多く、4 名の受賞者の今後の活躍が期待されるとともに、受賞者以外の応募者も今後、翻訳者としての道が開かれるよう、可能なサポートを考えていきたい。

授賞式・シンポジウムには、アメリカ出身北海道在住の大賞受賞者、そして、オーストラリア出身、静岡在住の作品賞受賞者も参加し、対象作品の漫画家も 2 名（『みやこ美人夜話』の須藤佑実先生、『egg star』の戸田誠二先生）が参加され、授賞式にて直接会う機会を持てた。審査員からは翻訳についてのポイント、よくある間違いを含めたプレゼンテーションがあり、受賞者も会場内も非常に興味を持って聞いていた。また、授賞式に引き続き行われたシンポジウムでは、日本と韓国から、プラットフォーム運営に長年携わるキーマンを招き、韓国及び日本におけるデジタルマンガの発展と、韓国発の Webtoon、その日本へのローカライズなどの現状を紹介、その後のフリーディスカッションでは、以下のような内容でパネル 4 人及びモデレーターによる議論が行われた。

（モデレーターによる概要説明）

- ・ DAUM～NAVER を経てレジン～KAKAO PAGE へ。縦スクロールの web 漫画、俗に言う Webtoon を軸とした韓国マンガ市場は急速な成長を遂げ、その規模は 2014 年コンテンツ有料化のパラダイムシフトをきっかけに、韓国オリジナル作品を中心に年間 700～800 億円とも言われる規模に達した。
- ・そのノウハウを活(い)かし日本向けにローカライズ、ブラッシュアップさせたストアが、いまや日本国内のマンガ配信ビジネスを牽引(けんいん)している。

（韓国でのデジタルコミック現況）

- ・ DCW の Yeo Young Ah 氏からは、韓国の出版社の視点から、韓国のマンガ市場がこれほどまでに成長した要因について、カカオジャパンの Kim Jay.Yong 氏からは、プロバイダ

第7章 成果

一、プラットフォームの視点から、ゲーム～マンガへ、コンテンツ課金モデル導入を成功に導いた要因を語ってもらった。

(韓国コミック配信モデルの日本へのローカライズについて)

- ・NAVER Webtoon Kim hyo min 氏から、縦スクロールマンガの日本向け配信（「XOY」など）について、また、広告収益とコンテンツ課金についての考え方も語ってもらった。また、カカオジャパンの Kim Jay.Yong 氏からは、サービスモデルの日本へのローカライズが成功した要因と今後の課題についての見解を伺った。

(日本コンテンツの韓国市場参入について)

- ・日本向けのローカライズと反対の流れで、日本のマンガ作品を韓国の市場で展開しようという動きがあるが、2004年から日本のコミック配信を牽引してきた大手ストアから見た韓国市場参入の展望と課題について、NTT ソルマーレの奥田氏からの見解があった。さらに、DCW の Yeo Young Ah 氏からは、韓国出版社から見た、日本のマンガの韓国市場における今後の可能性について語ってもらった。

(日本⇄韓国～さらなるその先へ)

- ・今後、日韓はもとより、それ以外の国、地域に向けた日本のコミック配信の可能性について、各パネラーより、難しい面はあるものの中国、東南アジア、また欧米でも日韓のマンガ、及びその配信手法を広めていける可能性があるのではないか、という話があった。

90分という限られた時間では、用意していたテーマ全てを消化できず、また、ひとつひとつのテーマについても、もっと突っ込んだ話合いをしても良かった。だが、過去最高を更新した会場参加者からは、身近なシンポジウムテーマということもあり、多くの関心が寄せられた。業界関係者がほとんどで一般参加者が少なかったことを補うため、当日録画した、授賞式及びシンポジウムの模様を、後日、公式HP上で公開する予定である。

第7回を迎えた「マンガ翻訳コンテスト」だが、海外で受け入れられる可能性のある作品はまだまだまだたくさんあり、より多くのマンガ翻訳者を輩出していかなければならない。さらに、日本発のマンガをもっとアピールしていくために、韓国をはじめとした海外の出版社、配信事業者、同種コンクール等とも協力していかななくてはならない。マンガの魅力を日本から世界へより広めていくためには、行政機関の協力、役割も重要だろう。「マンガ翻訳コンテスト」を基盤としつつ、よりブラッシュアップしていかなければならないと感じる。

本報告書は、文化庁の委託業務として、大日本印刷株式会社が実施した平成 30 年度「メディア芸術連携促進事業 連携共同事業」の成果をとりまとめたものであり、第三者による著作物が含まれています。転載複製等に関する問い合わせは、文化庁にご連絡ください。